

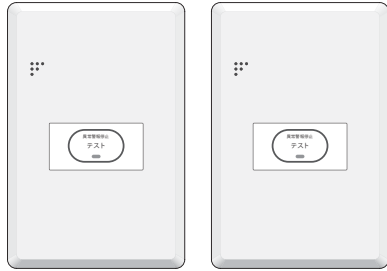
こちらの説明書を先にお読みください

無線式 連動型 住宅用火災中継アダプタ  
登録・設置説明書

〔適用機種〕

FSOJ002A-B

④ 本体の裏面および側面の  
銘板に記載しています。

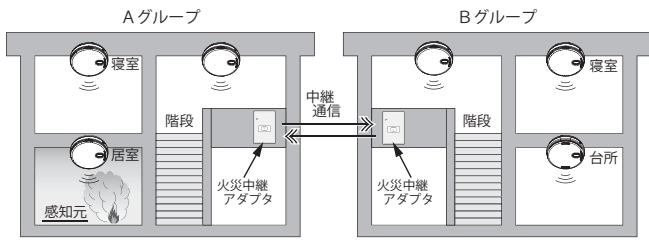


(ペア品)

- 取付前に必ずこの【登録・設置説明書】をお読みいただき、正しく設置してください。
- 白色紙【取扱説明書】をあわせてよくお読みください。
- 無線式連動型住宅用火災警報器の「取扱説明書」もあわせてよくお読みください。
- 本書に従わず設置された場合の事故や故障は責任を負いかねます。

はじめに

- 本機（ペア品）は、無線式連動型住宅用火災警報器（以下、警報器）のグループ間を無線で中継する機器です。警報器が火災を感知したとき、2つのグループすべての警報器から火災警報音が鳴動します。（本機からは、火災警報音を鳴動しません）
- 本機を使用するには、設定および登録のほか、電波状態の確認が必要です。本書に従って、正しく設置してください。
- 連動可能な無線式連動型住宅用火災警報器はFSKJ226、FSLJ016シリーズなどです。単独型（非連動型）警報器、自動火災報知設備用感知器および他社製品との連動はできません。
- ④ ペア品をそれぞれ異なるグループの警報器（親器）へ登録する必要があります。
- ④ ペア品はあらかじめ中継通信設定をしております。  
ペア品以外と組み合わせて使用することはできません。
- ④ 本機を3ペア使用することで、最大4グループまで火災警報を連動できます。設定・設置に条件がありますので、白色紙【取扱説明書】記載の「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。なお、4グループを超える運用は行わないでください。
- ④ 警報器（親器）に登録できる警報器（子器）の台数は、火災中継アダプタとあわせて15台までです。
- ④ 警報器については、警報器の「取扱説明書」を参照してください。



- 商品を正しく安全にお使いいただくため、この【登録・設置説明書】にはさまざまな注意事項を記載しています。以下の注意表示をよく理解してから本文をお読みください。

**警告** 取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負うか、警報機能の一部に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。

- **分解・改造の禁止**  
本機は総務省の技術基準適合品です。技術マーク(㊿)を貼付された商品は総務大臣の許可なしに改造して使用することはできません。  
④ 改造すると法律により罰せられることがあります。
- **落下などにより衝撃を与えた機器は使用しない。針金などの異物を混入しない。**  
正常に火災信号を中継できないおそれがあります。
- **電池切れ・電波異常の機器は使用しない。**  
火災時に火災信号を中継できないおそれがあります。
- **取付ネジや専用リチウム電池の取り扱い、乳幼児や子供の手の届かない場所で行う。**  
誤飲またはケガのおそれがあります。
- **高所の操作および作業は、安定した台に乗って行う。**  
転倒してケガをするおそれがあります。

**注意** 取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が傷害を負うか、物的損害が発生する危険な状態が生じる可能性がある場合、または警報機能の一部に悪影響を及ぼす可能性がある場合。

- **ぬれた手で電池コネクタを接続しない。**  
感電するおそれがあります。
- **設定・設置条件を必ずまもる。**  
以下をまもらないと、火災連動できないおそれがあります。  
・2グループを連動させる場合は本書に従い、設定および登録してください。  
・3グループまたは4グループを連動させる場合は、白色紙【取扱説明書】記載の「お客様ご相談窓口」にお問い合わせのうえ、設定および登録・設置してください。  
・4グループを超える運用は行わないでください。
- **専用リチウム電池は必ず2組接続する。**  
専用リチウム電池を2組接続しないで運用した場合、電池寿命が短くなり、火災時に火災信号を中継できなくなります。
- **専用リチウム電池を交換する場合は2組同時に行う。**  
新旧の電池を混在して使用すると、電位差（電圧差）により発熱または発火するおそれがあります。
- **本機や警報器の移設、家具などの移動後は必ず点検をする。**  
電波状態が変化し、火災時に火災信号を中継できない場合があります。

⚠ : 注意    ⚡ : 禁止    ! : 指示

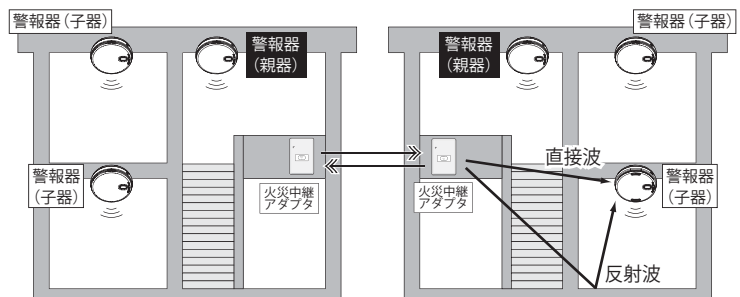
無線通信に関するご注意

本機は、電波法に基づく小電力セキュリティシステムの無線局として認証を受けています。以下の注意事項をよくお読みになり、設置してください。

- 本機は日本の電波法にのみ準じております。外国での使用はできません。
- 本機の送信電波が、人工呼吸器や心臓ペースメーカーなどの医用機器に影響を与える可能性は極めて少ないですが、医用機器の動作に影響を及ぼすおそれがありますので、各種医用機器と火災中継アダプタとは22cm以上離してください。
- アマチュア無線機と本機との距離は1m以上離してください。
- 機器間の電波到達距離は、障害物のない場所で水平距離100m程度です。以下の条件により到達距離が短くなったり、電波障害が生じるおそれがあるためご注意ください。
  - ・ 機器間に電波の障害となる要因（金属製のラック、鉄筋コンクリートなどの壁）がある。
  - ・ 機器の付近で携帯電話、スマートフォン、コードレス電話などを使用している。
  - ・ 近くに電子レンジなど電磁波を発生する家電品がある。
  - ・ 近くにテレビやラジオの送信所、無線局などの施設がある。
  - ・ 機器の付近でマイクロ波治療器などの医療機器を使用している。
  - ・ 人の移動により電波が遮られた場合。
- 本機と警報器間の設置環境が変化すると、電波の到達レベルも変化し、電波異常や電池切れが発生する可能性があります。

電波の飛びかた

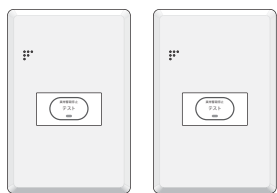
電波には下図のように直線的に届く直接波と、壁や天井や床などの障害物などに反射して届く反射波があります。実際には直接波と反射波の関係により電波が強まったり弱まったりするポイントがあります。本機を設置する際は、取り付ける前に仮設置し、電波状態の確認をすることが必要です。（4.1 電波状態の確認（仮設置）を参照）



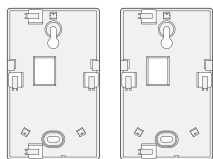
# 1 商品のご確認

以下の商品内容物が揃っていることを確認してください。

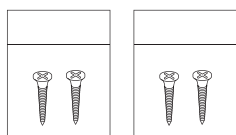
- ①火災中継アダプタ本体 (2台)    ②取付ベース (2ヶ)



③ 出荷時に本体に取り付けてあります。

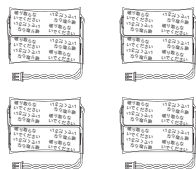


- ④取付ネジ (2本入り×2袋)



サイズ: φ3.5×25mm

- ③専用リチウム電池 (4組)  
(公称電圧 DC3V)



③・保護フィルムをはがさないでください。  
・市販ではありません。

- ⑤シールシート (2枚)

・登録番号表示シール  
・操作説明シール



- ⑥かんたん登録・設置ガイド



- ⑦登録・設置説明書 (本書)



- ⑧取扱説明書 (保証書付)

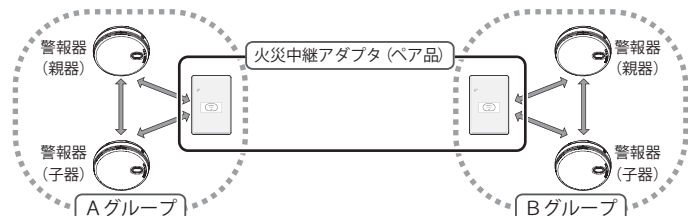


# 2 作業をはじめる前に

警報器は、警報器 (親器) を中心にグループを構成することで火災時に連動して火災警報音を鳴動します。  
本機 (ペア品) は2つのグループ間を無線で中継します。  
(火災連動時の動作については白色紙【取扱説明書】を参照してください。)  
以下に、グループ間を中継するために必要なシステム構成や作業について説明します。

## システム構成例

本書では、以下の構成を基本として説明します。  
2つのグループをそれぞれ「Aグループ」、「Bグループ」とします。  
ペアの火災中継アダプタをそれぞれ「Aグループ」と「Bグループ」の警報器 (親器) に登録することで火災信号を中継することができます。  
この構成をよくご理解のうえ、作業をはじめてください。



- 登録とは  
火災中継アダプタ・警報器 (親器・子器) に対し、それぞれが持つID (固有識別番号) を認識させる操作のことです。
- グループとは  
相互に連動させることができる火災中継アダプタ・警報器の集まりです。1つのグループには警報器 (親器) 1台に対し火災中継アダプタ・警報器 (子器) 合わせて最大15台登録できます。
- 連動とは  
ある警報器が火災警報を発したときに、その信号を受信した火災中継アダプタ・他の警報器が、火災警報を発する動作のことです。

- 消去とは  
火災中継アダプタ・警報器 (親器・子器) それぞれに登録した情報を消去する操作のことです。設置した火災中継アダプタ・警報器 (子器) を交換または撤去する場合は、取りはずす機器の情報を警報器 (親器) から消去する必要があります。

## 注意事項

- ・2つのグループを連動させる場合は本書に従い正しく設定・登録してください。
- ・3グループまたは4グループを連動させる場合は、本書記載の内容以外に構成・設定や設置などに制約がありますので、白色紙【取扱説明書】記載の「お客様相談窓口」までお問い合わせください。
- ・4グループを超える運用は行わないでください。
- ・1台の警報器 (親器) に登録できる警報器 (子器) の台数は、火災中継アダプタとあわせて15台までです。

## 作業の流れ

本機を使用するには、以下の作業が必要になります。

### 3.1 登録

#### ①周波数 (無線チャンネル) の設定

連動させる機器の周波数 (無線チャンネル) を設定します。  
(1) ペアの火災中継アダプタ間  
(2) Aグループ内    (3) Bグループ内  
以上の3つの設定があるので、正しく設定してください。

#### ②電池の取り付け

登録操作の前に、本機および警報器に専用リチウム電池を取り付けます。

#### ③警報器 (親器) と警報器 (子器) の登録

警報器 (親器) に警報器 (子器) を登録し、Aグループ・Bグループの2つのグループを構成します。  
警報器の「取扱説明書」を参照してください。

#### ④火災中継アダプタと警報器 (親器) の登録

本機 (ペア品) の各々を、A・Bグループの警報器 (親器) にそれぞれ登録します。

#### ⑤登録後の確認 (テスト)

本機およびすべての警報器の登録が正しくできているか、テストをして確認します。

### 4 設置

#### 4.1 電波状態の確認 (仮設置)

ペア品の2台について、仮設置して電波状態を確認します。

#### 4.2 火災中継アダプタの設置

ペア品の2台を壁面に取付ネジで設置します。

#### 4.3 設置後の確認

設置 (運用) 状態における本機の通信テストを行い、登録したグループの警報器 (親器) およびペアの火災中継アダプタとの通信状態を確認します。

③ペア品の2台について行います。

# 3 登録と消去

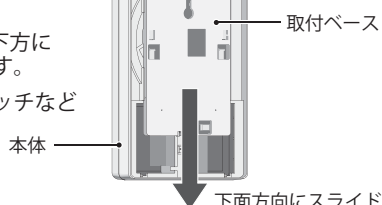
### 3.1 登録

#### ①周波数 (無線チャンネル) の設定

火災信号を中継するには、以下の (1) ~ (3) の周波数 (無線チャンネル) 設定が必要です。

- (1) ペアの火災中継アダプタ間
- (2) Aグループ内
- (3) Bグループ内

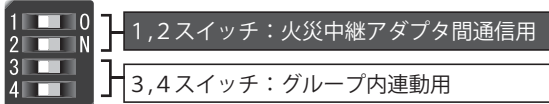
1. 本体を押さえ、取付ベースを下方にスライドさせて取りはずします。  
本体裏面に周波数設定用スイッチなどがあります。



下面方向にスライド

2. 以下の2つの周波数（無線チャンネル）を設定します。

- ・火災中継アダプタ間通信用（1,2スイッチ）
- ・グループ内連動用（3,4スイッチ）



それぞれにCH1～CH4の4つのチャンネルがあります。正しくチャンネルを設定してください。

1,2スイッチ				3,4スイッチ			
CH1	CH2	CH3	CH4	CH1	CH2	CH3	CH4

周波数（無線チャンネル）の設定は、**（制約事項）**を参考にしてください。

- ペアの火災中継アダプタ間  
火災中継アダプタのペア品同士について、1,2スイッチを同じ周波数（無線チャンネル）に設定します。
  - Aグループ内  
Aグループ内の火災中継アダプタの3,4スイッチを、Aグループの警報器と同じ周波数（無線チャンネル）に設定します。
  - Bグループ内  
Bグループ内の火災中継アダプタの3,4スイッチを、Bグループの警報器と同じ周波数（無線チャンネル）に設定します。  
**ただし、Aグループと同じ周波数（無線チャンネル）は使用できません。**
- ④ 設定を変更する場合は、ボールペンなど先が細くて折れないものでスイッチを切り替えてください。

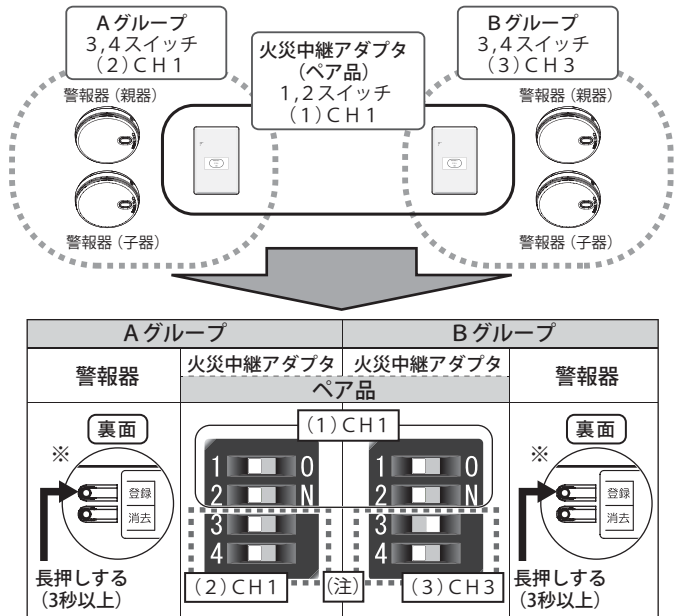
**制約事項**

- 3,4スイッチの設定には、以下のような条件があります。  
Aグループ：「**すべての機器をCH1**」または「**すべての機器をCH2**」  
Bグループ：「**すべての機器をCH3**」または「**すべての機器をCH4**」  
の条件に合うように設定してください。  
この条件をまもらない場合、火災時に連動できないか連動に時間がかかるおそれがあります。

	Aグループ		Bグループ	
火災中継アダプタ 3,4スイッチの設定				
	CH1	CH2	CH3	CH4

- すでに設置済みのグループがある場合は、条件に合うようにすべての機器の周波数（無線チャンネル）の設定を変更してください。

**周波数（無線チャンネル）の設定例**



- 警報器の周波数（無線チャンネル）の確認方法は、警報器の「取扱説明書」を参照してください。（本書は、FSK J226, FSL J016シリーズを例示しています。）

- （1）火災中継アダプタのペア品同士は**1,2スイッチの設定を同じチャンネル**にします。
- （2）Aグループの機器はすべて**チャンネル設定を同じ**にします。
- （3）Bグループの機器はすべて**チャンネル設定を同じ**にします。

- ④ AグループとBグループは**チャンネルを別の設定**にし、**（制約事項）**の条件を満たす必要があります。
- ※ 『登録』ボタンの**長押し**（3秒以上）後、**短押し**（1秒未満）することにより「チャンネル〇」と鳴動しチャンネルは切り替わります。（チャンネル番号は「1→2→3→4→1…」の順に切り替わります。）

**②電池の取り付け**

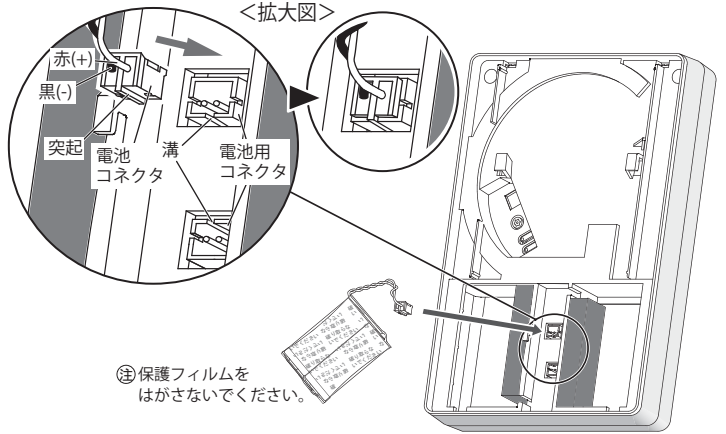
登録操作の前に、以下の手順で電池を取り付けます。

1. 電池コネクタを本体の電池用コネクタに接続します。

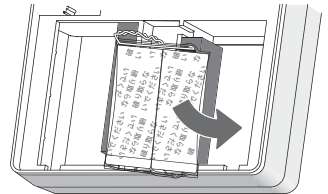
このとき拡大図のように、電池コネクタの突起と本体の電池用コネクタの溝を合わせて、奥までしっかりと接続してください。

**必ず守る** 専用リチウム電池のコネクタは奥までしっかりと差し込み、**確実に接続する**。  
コネクタ接続が不十分な場合、発熱や正常に動作しないおそれがあります。

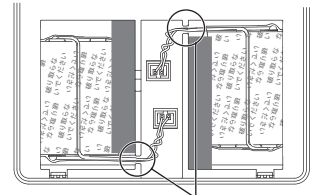
電池を収納する前にコネクタを接続する。（向きに注意）



2. 本体裏面の電池収納部に電池を納めてください。  
このとき電線を電池収納部の溝に通してください。  
通さないと、本体が取付ベースに取り付けられません。



3. 2組目の電池も同様に、手順1,2の要領で接続してください。



**必ず守る** 電池は必ず**2組とも接続する**。  
接続しない場合、電池寿命が短くなります。

電池収納部の溝に電線を通す

**③警報器（親器）と警報器（子器）の登録**

警報器の「取扱説明書」を参照して、「Aグループ」「Bグループ」ごとに、警報器（子器）を警報器（親器）に登録してください。

**④火災中継アダプタと警報器（親器）の登録**

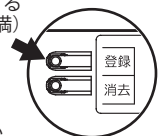
ペアの火災中継アダプタを各々、「Aグループ」「Bグループ」の警報器（親器）に登録します。

**火災中継アダプタのペア間は、あらかじめ中継通信設定をしてあります。ペア品以外と組み合わせて使用することはできません。**

**警報器（親器）および火災中継アダプタを、取付ベースをはずしたままの状態**で裏返しにして並べて置きます。

1. Aグループの警報器（親器）裏面の『登録』ボタンを**短押し**（1秒未満）して、登録モードにします。  
Aグループの警報器（親器）から操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯「緑」が点灯します。

**警報器（親器）裏面**  
短押しする（1秒未満）

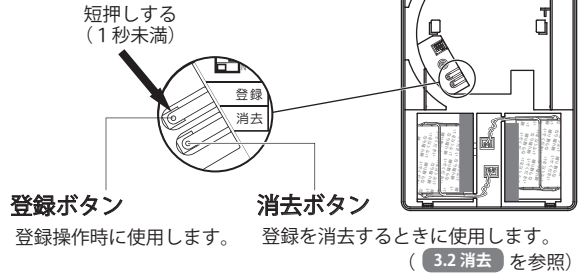


- 警報器（親器）を登録モードにしてから、何も操作をしない状態が1分以上経過すると、警報器（親器）に登録してある機器の台数を「〇台登録」と鳴動したあと、表示灯が消灯し、登録モードが終了します。
- 警報器（親器）からエラー音「ピピピピ」が鳴り、登録モードにならない場合は、警報器（親器）が【電池切れ】【機器異常】【通信処理中】のいずれかである可能性があります。  
警報器の「取扱説明書」4.2単独テスト（警報器の機能を確認する）を行い、**（テスト結果）**に応じて、対処してください。

**禁止** 登録・消去ボタンの操作は、鉛筆など折れやすいもので行わない。  
折れた芯などが内部に入り、故障の原因となるおそれがあります。

＜裏面に続きます＞

2. 登録するAグループの本機を警報器（親器）の近くに置き、本機裏面の『登録』ボタンを短押し（1秒未満）して、グループに登録します。



**必ず守る**

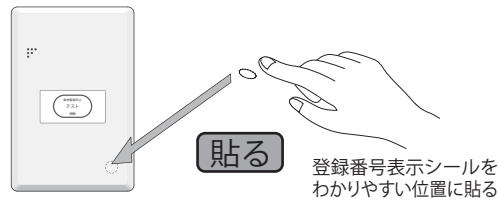
- 登録操作中に、他のボタンを押さない。
- 登録操作は、成功の音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実に進行。  
登録中にエラーになったり意図しない登録情報となる場合があります。

Aグループの本機から操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。しばらくすると、本機が状態を鳴動し、表示灯が消灯します。本機に鳴動した登録番号と同じ登録番号表示シールを本体表面のわかりやすい位置に貼ります。

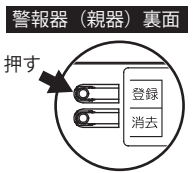
状態	警報音(音声)	表示灯
成功	<登録> ○番登録	消灯
エラー	ピピピピピ	消灯
失敗	ピピピピ	[赤] または [橙] 点灯

- 「○番」には、本機の登録番号<sup>イチ ジュウゴ</sup>1～15が鳴動します。
- 鳴動するまで約5～30秒かかります。
- エラーの場合、本機が電波異常である可能性があります。以下の操作を行ってください。
  - 1) 本機の電池コネクタを抜きます。
  - 2) 本体表面の『テスト』ボタンを長押し（約5秒）します。
  - 3) 本機の電池コネクタを接続します。
  - 4) 警報器（親器）が登録モード中の状態で、本機裏面の『登録』ボタンを再度短押し（1秒未満）します。
- 失敗の場合、表示灯の色を確認し、下表に従い対処してください。

表示灯	状況と対処
[赤] 点灯	<p>【状況】警報器（親器）が登録モードではない可能性があります。</p> <p>【対処】手順1から操作をやり直してください。</p> <p>【状況】周波数（無線チャンネル）の設定が異なっている可能性があります。</p> <p>【対処】3.1登録の①周波数（無線チャンネル）の設定で、警報器（親器）と本機のチャンネル設定を確認してください。</p> <p>【状況】すでに警報器（親器）に15台の機器が登録されている可能性があります。</p> <p>【対処】警報器（親器）の登録モードを終了させて、機器の登録台数を確認してください。警報器（親器）の登録モードは、警報器（親器）の『登録』ボタンを短押し（1秒未満）して終了させるか、1分後に自動で終了するのを待ってください。</p>
[橙] 点灯	<p>【状況】登録作業に支障をきたす電波が存在する可能性があります。</p> <p>【対処】登録操作場所を変更するか、しばらく待ってから再度登録操作を行ってください。改善しない場合は、3.1登録の①周波数（無線チャンネル）の設定ですべての機器を別のチャンネルに変更のうえ、手順1から操作をやり直してください。</p>



3. 登録作業が終了したら、警報器（親器）裏面の『登録』ボタンを押して、登録モードを終了します。操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。以下のとおり警報器（親器）が鳴動し、表示灯が消灯します。



『登録』ボタン	警報音(音声)	鳴動内容
短押し（1秒未満）	○台登録	警報器（親器）に登録されている機器の合計台数を鳴動
長押し（2秒以上）	ピ△番□番・登録	警報器（親器）に登録されているすべての機器の登録番号を鳴動

- 「△番」および「□番」には、登録されている機器の登録番号が鳴動します。

4. Bグループの火災中継アダプタについても、Bグループの警報器（親器）に対して同様に手順1～3を行い登録します。  
⑤手順1～3の「Aグループ」を「Bグループ」に読み替えてください。

### ⑤登録後の確認（テスト）

本機ペア品の各々が正常に登録できていることを確認します。1台ずつ本機ペア品の各々で、通信テスト実施してください。

**注意**

グループ内連動テスト、連動テストはグループ内またはすべての警報器が火災警報を鳴動します。テストをするときは、周囲の迷惑にならないよう夜間を避けてください。

### 通信テスト

**必ず守る**

確認（テスト）は、音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実に進行。正常に確認（テスト）ができないおそれがあります。

警報器（親器）と同一グループの火災中継アダプタ間の通信とペアの火災中継アダプタ間の通信を確認します。

1. 火災中継アダプタの『テスト』ボタンを短押し（1秒未満）します。

火災中継アダプタから操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯してグループの警報器（親器）との通信テストを開始します。しばらくすると火災中継アダプタの表示灯が[緑]から[橙]に切り替わり、ペアの火災中継アダプタとの通信テストを開始します。通信テストが終わるとテスト結果を鳴動します。

結果	警報音(音声)	表示灯
正常	○番 正常です	[橙] 連続点滅 (正常ですの後、約5秒間)

- 「○番」には、テストした機器の登録番号1～15が鳴動します。  
(イチ、ニ、サン、ヨン、ゴ、ロク、ナナ、ハチ、キュウ、ジュウ、ジュウイチ、ジュウニ、ジュウサン、ジュウヨン、ジュウゴ)
- 「○番」のあとに、約30秒間の無音状態が継続します。
- 上記以外の結果の場合、4.1電波状態の確認（仮設置）の『テスト結果』を参照して対処してください。表にない場合は白色紙【取扱説明書】3.2機能をj確認するの①通信テストを参照し、対処してください。
- 必ずペア品の両方についてテストをしてください。

### グループ内連動テスト

グループ内の火災連動動作を確認します。

1. 火災中継アダプタの『テスト』ボタンを長押し（2秒以上）します。

火災中継アダプタから操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯して、そのまま2秒以上押し続けると「ピ」と鳴り、下記の動作をします。

	警報音(音声)	表示灯
テスト操作した火災中継アダプタ	無音	[赤] 連続点滅 (約15秒間)
テスト操作した火災中継アダプタと同一グループの警報器	ピー ヒュー ヒュー ○番火事です (3回繰り返し)	[橙] 連続点滅 (警報音鳴動中)

- 「○番」には、テストした機器の登録番号<sup>イチ ジュウゴ</sup>1～15が鳴動します。
- 警報器は、約4～20秒後\*に連動して鳴動します。  
\*周囲の環境によっては延びる場合があります。
- 電池切れ警報時でもグループ内連動の確認ができます。
- 電波異常警報時でもグループ内連動をする場合があります。
- 上記以外の結果の場合、白色紙【取扱説明書】3.2機能をj確認するの②グループ内連動テストを参照し、対処してください。
- 必ずペア品の両方についてテストをしてください。

## 連動テスト

登録したすべての機器が火災連動するか確認します。

- 登録している警報器の、いずれか1台の『**警報停止/テスト**』ボタンを**長押し**(2秒以上)します。  
操作音が「**ピピ**」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。  
そのまま2秒以上押し続けると「**ビ**」と鳴り、すべての機器が以下の動作をします。

	警報音 (音声)	表示灯
操作元警報器	ピー ヒュー ヒュー <b>火事です 火事です</b> (3回繰り返し)	[赤] 連続点滅 (警報音鳴動中)
連動先警報器	ピー ヒュー ヒュー <b>〇番火事です</b> (3回繰り返し)	[橙] 連続点滅 (警報音鳴動中)
火災中継アダプタ	<操作元グループ> 無音	[橙] 連続点滅 (約1.5秒間)
	<中継先グループ> 無音	[赤] 連続点滅 (約1.5秒間)

- 「〇番」には、テストした機器の登録番号<sup>イチ ジョウゴ</sup>1~15が鳴動します。
- 約4~4.5秒後<sup>\*</sup>にすべての警報器が連動して鳴動します。  
※周囲の環境によっては延びる場合があります。
- 電池切れ警報時でも火災連動動作の確認ができます。
- 電波異常警報時でも火災連動動作をする場合があります。
- 上記以外の結果の場合、警報器「取扱説明書」の4.3 連動テスト (警報器の連動動作機能を確認する) を参照し、対処してください。

## 3.2 消去

消去操作は、必ずペア品の2台(本体裏面の銘板に記載してある、製番の下6桁が同じ番号の2台)について実施してください。  
火災中継アダプタ1台で使用することはできません。

- ペア品の片方のみを消去した場合、もう一方が電波異常となります。
- 火災中継アダプタが電波異常警報を出している場合は、消去することができません。(エラー音「**ピピピピ**」が鳴動)  
火災中継アダプタの電池コネクタ(2ヶ)を抜き、『**テスト**』ボタンを**長押し**(約5秒)した後、再度電池コネクタ(2ヶ)を接続してください。
- 火災中継アダプタを交換した場合は、正常に動作するか、通信テストを行ってください。  
テスト方法は **4.3 設置後の確認** を参照してください。

**必ず守る**

消去方法には本書に記載する「消去」以外に、「電波異常中の機器の消去」、「警報器(親器)の一括消去」、「警報器(子器)の個別消去」<sup>\*</sup>があります。  
電波異常で通信ができない場合や、システムの全消去をするとき以外は本書の手順に従い消去してください。  
本書記載の「消去」以外の方法で消去する場合は警報器の「取扱説明書」の **2.2 その他の消去方法** を参照し消去するか、本機の白色紙【取扱説明書】記載の「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。  
※火災中継アダプタも警報器(子器)と同様の操作で消去できます。

### ①火災中継アダプタと警報器(親器)の確認

- 火災中継アダプタと警報器(親器)を取付ベースからはずします。
- 火災中継アダプタ裏面の周波数設定用スイッチ(3,4スイッチ)の設定チャンネルが警報器と同じであることを確認します。

### ②警報器(親器)から火災中継アダプタの登録を消去する

**必ず守る**

- 消去操作中に、他のボタンを押さない。
- 消去操作は、成功の音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実にを行う。  
消去中にエラーになったり意図しない登録情報となる場合があります。

- 消去するグループの警報器(親器)裏面の『**登録**』ボタンを**短押し**(1秒未満)して、登録モードにします。  
警報器(親器)から操作音が「**ピピ**」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。
- 消去する火災中継アダプタを同一グループの警報器(親器)の近くに置き、火災中継アダプタ裏面の『**消去**』ボタンを**短押し**(1秒未満)して、グループからはずします。  
火災中継アダプタから操作音が「**ピピ**」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。  
しばらくすると、火災中継アダプタが「**〇番消去**」と鳴り、表示灯が消灯します。

- 「〇番」には、火災中継アダプタの登録番号<sup>イチ ジョウゴ</sup>1~15が鳴動します。
- 消去に失敗した場合は、**3.1 登録** の **④火災中継アダプタと警報器(親器)の登録** の手順2を参照してください。

- 消去作業が終了したら、消去したグループの警報器(親器)裏面の『**登録**』ボタンを押して、登録モードを終了します。

警報器(親器)から操作音が「**ピピ**」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。  
以下のとおり警報器(親器)が鳴動し、表示灯が消灯します。

『登録』ボタン	警報音(音声)	鳴動内容
短押し (1秒未満)	〇 <b>台登録</b>	警報器(親器)に登録されている機器の合計台数を鳴動
長押し (2秒以上)	ピ△番〇番 <b>登録</b>	警報器(親器)に登録されているすべての機器の登録番号を鳴動

- 「△番」および「〇番」には、登録されている機器の登録番号が鳴動します。

- ペアの火災中継アダプタのもう一方についても、登録しているグループの警報器(親器)から同様に

- ①火災中継アダプタと警報器(親器)の確認 と
- ②警報器(親器)から火災中継アダプタの登録を消去する の手順1~3を行い登録を消去します。

## 4 設置

**必ず守る**

- 0~40℃の温度範囲内で結露しない場所に取り付ける。
- 本機は必ず正しい取付場所に取り付ける。  
次のような場所に取り付けた場合、誤作動の原因および正常に火災を感知できないおそれがあります。

次のような場所には取り付けないでください。

- 浴室など、水がかかる場所や、常時温度や湿度が高い場所
- 石油ストーブの近くなど、ススや熱や水蒸気が発生する場所
- ホコリや虫の多い場所
- コンロの近くなど、台所や居室で油煙や熱が直接かかる場所
- 加湿器の近くなど、結露しやすい場所
- ガレージ、調理場などの、火災でない煙や熱、蒸気などがかかる場所
- カーテンレールの上部などのホコリが立ちやすい場所
- 屋外
- 無線LANなどの無線送信機や、電磁波を発生する機器のそば

### 4.1 電波状態の確認(仮設置)

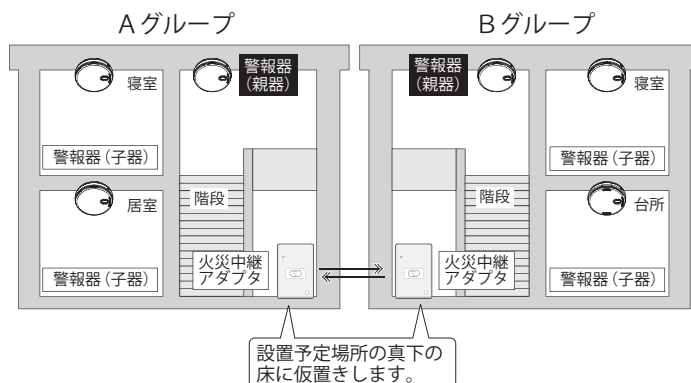
**必ず守る**

- 取り付けの前に、以下の方法で電波状態の確認を行う。  
電波状態を確認しないで取り付けした場合、設置位置の変更が必要となる場合があります。また、仮置き確認後に本設置した場合でも、家具などの位置関係により電波異常となることがあります。
- 操作は、音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実にを行う。  
正常に確認ができないおそれがあります。

警報器が設置されていない場合は、警報器の「取扱説明書」を参照して警報器を設置してください。

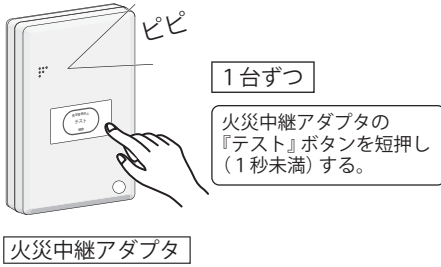
- 火災中継アダプタペア品の2台をそれぞれ設置予定位置(テストボタンが操作可能な壁面)の真下の床に仮置きします。

警報器は設置状態のままです。  
(警報器(親器)が未設置の場合は、火災中継アダプタと同様に設置予定場所の真下の床に仮置きします。詳細は警報器の「取扱説明書」を参照してください。)



## 2. 火災中継アダプタの『テスト』ボタンを短押し（1秒未満）します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯 [緑] が点灯し、登録しているグループの警報器（親器）との通信テストを開始します。しばらくすると火災中継アダプタの表示灯が [緑] から [橙] に切り替わり、ペアの火災中継アダプタとの通信テストを開始します。通信テストが終わるとテスト結果を鳴動します。



●必ずペア品の両方について手順2の操作をしてください。

### テスト結果

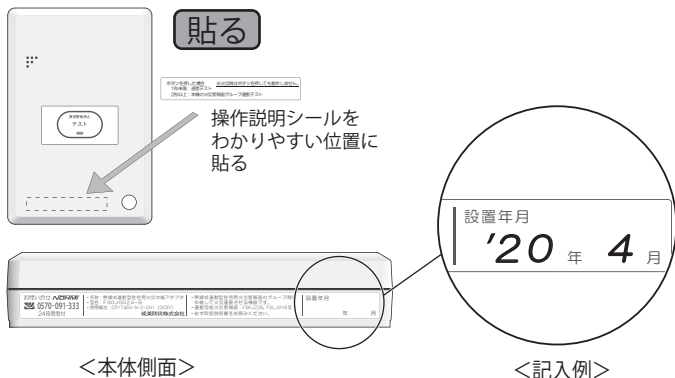
機器の 状態	テスト結果	
	警報音（音声）	表示灯
電波状態 良好	○番 正常です ⇒ 4.2 火災中継アダプタの設置 に進み、火災中継アダプタを設置してください。	[橙] 連続点滅 (正常です の後、約5秒間)
電波状態 不良	<警報器（親器）との電波異常> ○番 ピピピピ電波異常です、 <sup>ゼロ</sup> 0番	[赤・橙・緑のいずれか] 点灯 ( [橙] 2回点滅後、 0番 鳴動中 )
	<ペアの火災中継アダプタとの電波異常> ○番 ピピピピ電波異常です、 <sup>ゼロ</sup> 002番	[赤・橙・緑のいずれか] 点灯 ( [橙] 2回点滅後、 002番 鳴動中 )
	<上記両方の電波異常> ○番 ピピピピ電波異常です、 <sup>ゼロ</sup> 0番、 <sup>ゼロ</sup> 002番	[赤・橙・緑のいずれか] 点灯 ( [橙] 2回点滅後、 0番 鳴動中 )
	⇒ 白色紙【取扱説明書】3.2 機能を確認する の ①通信テスト を参照し、 対処方法に従ってください。	[赤・橙・緑のいずれか] 点灯 ( 上記点灯後、 002番 鳴動中 )
警報器 (親器) に未登録	99、ピピピピ ⇒ 3.1 登録 の ④火災中継アダプタと警報器（親器）の登録 に戻り、火災中継 アダプタを登録してください。	消灯

- 「○番」には、テストした本機の登録番号1～15が鳴動します。
- 「○番」のあとに、約30秒間の無音状態が継続します。
- 良好以外の結果の場合、白色紙【取扱説明書】3.2 機能を確認する の ①通信テスト を参照し、対処してください。  
警報器（子器）については警報器の「取扱説明書」を参照してください。

## 4.2 火災中継アダプタの設置

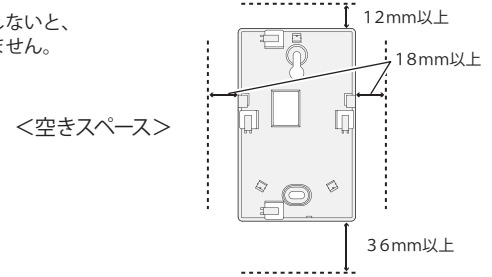
下記の要領で『テスト』ボタンが操作できる範囲の壁面に取り付けます。

1. 操作説明シール（付属品）を本体表面に貼ります。  
また、本体側面に油性ペンで設置年月を記入します。



## 2. 設置の際、周囲にスペースを空けてください。

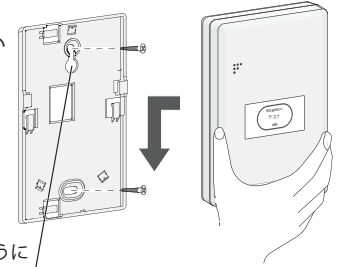
- 空きスペースを確保しないと、本体が取り付けできません。



3. 壁面の十分強度のある補強材などが通っている場所に、向きを間違えないように取付ネジ2本で取付ベースを固定します。

4. 本体を取付ベースに押し当て、下方向にスライドさせてください。

ダルマ穴が真上にくるように



## 4.3 設置後の確認

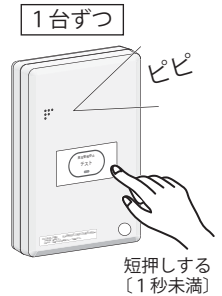
- 設置したあとに必ずテストを行う。  
機器に異常がある場合、火災時に火災信号を中継できないおそれがあります。
- 操作は、音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実に行う。  
正常に確認ができないおそれがあります。

火災中継アダプタを設置したあと、ペアの2台をそれぞれ以下の方法で通信テストし、火災中継アダプタの登録番号、および機能が正常であることを確認してください。

警報器（親器）と、同一グループの火災中継アダプタ間の通信とペアの火災中継アダプタ間の通信を確認します。

1. 1台ずつ火災中継アダプタの『テスト』ボタンを短押し（1秒未満）します。

火災中継アダプタから操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯 [緑] が点灯してグループの警報器（親器）との通信テストを開始します。しばらくすると火災中継アダプタの表示灯が [緑] から [橙] に切り替わり、ペアの火災中継アダプタとの通信テストを開始します。通信テストが終わるとテスト結果を鳴動します。



結果	警報音（音声）	表示灯
正常	○番 正常です	[橙] 連続点滅 (正常です の後、約5秒間)

- 「○番」には、テストした機器の登録番号1～15が鳴動します。  
(イチ、ニ、サン、ヨン、ゴ、ロク、ナナ、ハチ、キュウ、ジュウ、ジュウイチ、ジュウニ、ジュウサン、ジュウヨン、ジュウゴ)
- 「○番」のあとに、約30秒間の無音状態が継続します。
- 上記以外の結果の場合、4.1 電波状態の確認（仮設置）の (テスト結果) を参照して対処してください。表にない場合は白色紙【取扱説明書】3.2 機能を確認する の ①通信テスト を参照し、対処してください。
- 必ずペア品の両方についてテストをしてください。

連動時の警報音や動作などを確認したい場合は、連動テストを実施してください。

詳細については 3.1 登録 の ⑤登録後の確認（テスト）の (グループ内連動テスト、連動テスト) を参照してください。

- グループ内連動テスト、連動テストは連動機能のみを確認しています。グループ内連動テスト、連動テストは連動を確認できますが、機器の状態（電池切れ）を確認することはできません。必ず定期的に通信テストを行ってください。いざというとき火災警報を連動できないおそれがあります。
- グループ内連動テスト、連動テストはグループ内またはすべての警報器が火災警報を鳴動します。  
テストをするときは、周囲の迷惑にならないよう夜間を避けてください。

**NOHMI** 能美防災株式会社

本社 〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3  
URL <https://www.nohmi.co.jp/>

**NOHMI** は、能美防災株式会社の登録商標です。